

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2016年(平成28年)1月1日 《年6回・奇数月発行》 会報 第86号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao,Khan Por Senchy
Khan Por Senchy,(Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】 AAC21 検索

【公式ブログ】 メコンの風に吹かれて 検索

【Facebook】 https://www.facebook.com/aac21.net 検索

青空教室からレンガ造り校舎にお引越し

11月6日、かねてより建設中だった新校舎の完成を祝い、贈呈式が行われた。
完成したのは、セナープロモック小学校(プレンピア県スロヨン郡・生徒数1100人)の新校舎で、宮下隆さん(東京都調布市、里親会員の資金協力によるもの。併せ、宮下晴男さん(千葉県習志野市、会員)がトイレ棟を寄贈、福山信夫さん(神奈川県秦野市、会員)も学用品を寄贈してくれた。



贈呈式であいさつする宮下隆さん

贈呈式には、ふれあいの旅に参加したメンバーが出席。カンボジア政府から、シアン・ブン・レン閣下(内務省長官)夫妻が出席してくれ、村人、生徒ら約300人が出席した。
式の中、校舎を寄贈した宮下隆さんと仲介した本会の根岸理事長に、政府から感謝状とメダルが贈られた。
宮下さんは2014年11月、同小学校に井戸を寄贈したが、青空教室で勉強していた子どもたちに心を痛め、校舎を贈ることを決めた。
式の中で宮下さんは「これを機に大いに学んでください」と、生徒たちを激励した。



新しい教室で学ぶ子どもたち

千里の道も一歩から

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

に関わり、名前だけは顧問という立場で支援活動に加わった。いまも続けている。
2008年には、縁あってインドの Kolkata で児童養護施設をサポートしているNGOの代表を仰

日本の子どもの6人に1人が貧困家庭という報道もあった。「まずは日本の子どもたちを何とかしろ!」と世間の風当たりが耳に痛

ところが、遠い国の現場からは、
態がそこにある。
特に、カンボジアの農村で暮ら



カンボジア代表と日本代表のサッカー試合を観戦(11月17日、プノンペン市内のオリンピックスタジアムで)

私が国際協力に関わるようになり、11月で丁度20年になった。20年前の1995年11月29日、初めて途上国といわれる国を訪ねた。カンボジアである。
2002年、中国の雲南省に住む少数民族を教育支援するNGO

せつかり、いまに至っている。この20年間で、世界は激変した。カンボジアも中国もインドも、日本をしのぐ成長ぶりに、多くの方から支援は不要ではと問われた。2011年に発生した東日本大震災が、不要論に拍車をかけた。

相変わらず支援を求める声を多く聞く。成長著しい3つの国だが、底辺まではその恩恵が届かない実

す子どもたちの実情には目を覆いたくなることもある。しかし、何もない中で、意外と元気で陽気に暮らしている。きつと、お金で買えない何かがあるのだろう。

カンボジアへの支援活動が20年になったのを機に、一冊の本を出した。200ページに満たない小さな単行本だが、ささやかな記念パーティも行った。本書を通じて、カンボジアの実像を理解していただけたら本望である。

いずれにしても、私たちの小さな活動だけでは、こうした現状を一気に変えることはできない。しかし、蟻の一穴ではないが、信念と情熱を持ち活動していけば、大きな山を動かすこともできるだろう。「千里の道も一歩から」

在カンボジア日本国大使館を表敬訪問



隈丸大使を囲んで(大使館ロビーで)

11月10日、「カンボジアふれあいの旅」に参加したメンバーの11人が、「セナープロモック小学校」に新校舎を贈呈した報告を兼ね、在カンボジア日本国大使館(プノンペン市)を表敬訪問、隈丸特命全権大使と面談した。
隈丸大使は訪問団を温かく迎え入れてくださり、最近のカンボジア事情などについて分かりやすく説明してくれた。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめしてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば70年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の用途】: 年会費の40%が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の60%が、夢ホームで暮らす子どもたちの生活費及び運営費、里子をケアして下さる各学校への謝礼金、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃・車の減価償却費など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも里子が学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。(年に一度、成績表も届きます)

【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。(お礼状と写真が届きます)

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいております。

児童養護施設 夢ホーム日記



カンボジアのコンポンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活と教育の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。現在9歳から18歳までの10人の子どもたちが暮らし、近所の小・中・高校に通学しています。

■ 新学期が始まる

長い休みが終わり、10月19日に新学期が始まった。新しく入園したコム・メンティ君(5年生)も元気に通学を始めた。

■ 大勢の皆さんが訪問

11月も「カンボジアふれあいの旅」に参加した皆さん始め、多くの日本人が訪問してくれ、子どもたちと交流したり、お米を寄贈してくれた。

訪問者＝「カンボジアふれあいの旅」参加者一同、渡邊新太ほか1人、神戸ユネスコ協会一同(敬称略)



高校生3年生になったトンヘアン君

10月はライオンズクラブの皆様の寄贈による井戸が3つ完成したが、同じく11月も3つの井戸が完成した。

寄贈したのは、カンボジアふれあいの旅に参加した後藤美由紀さん、「地球の平和のための謎とき会」、「北海道札幌手稲高等学校家庭クラブ」。

11月10日、後藤美由紀さん始めふれあいの旅参加者が出席して贈呈式を、11月20日、延泊した根岸理事長が出席して贈呈式をそれぞれ行った。



井戸を寄贈した後藤美由紀さん

11月は3つの井戸が完成

カンボジアは、丁度この日が新学期の始業式、生徒たちはほぼ全員が集い、クラブの皆さんと楽しいひとときを過ごした。

井戸とサンダルを寄贈してくれたのは、東京江戸川東ライオンズクラブ、東京上野南ライオンズクラブ、東京フロンティアライオンズクラブの3団体。



井戸とサンダルを寄贈したライオンズクラブの皆さん

ライオンズクラブ3団体が 井戸とサンダルを寄贈

10月17日、19日、東京都内のライオンズクラブ・3団体がカンボジアを訪問、3つの小学校に井戸とサンダルを寄贈した。10月19日、井戸贈呈式がそれぞれの小学校で行われ、クラブの皆さんが出席した。

ソリヤ小学校の新校舎 建設工事進む

コンポンスプー県オラル郡に建設中の小学校校舎(ソリヤ小学校・生徒数120人)を、11月14日に視察した。9月のように大雨に見舞われることはなかったが、道なき道を行く悪路に変わりなかった。

校舎建設は、50～60%の仕上がりがかった。

3月7日に予定している開校式に向け、工事が継続される。



完成が待たれる新校舎

上山陽子さんが音楽指導

「カンボジアふれあいの旅」に参加した上山陽子さん(奈良県大淀町、法人監事・里親会員)が延泊、11月13日、14日の2日間、夢ホームの子どもたちが通う「タメイ小学校」及び「タメイ幼稚園」にてピアノによる音楽指導と遊戯指導を行った。

初めてピアノを吹く生徒に、優しく指導していた。



音楽指導する上山陽子さん

トロパントム石川小学校教育基金

石川桂副理事長の資金提供による同基金では、「トロパントム石川小学校」(コンポンチャム県プレイチュ郡・生徒数1150人)に通学する生徒の中で、貧しい家庭にある子(10人)を選び、11月から1年間に亘り、教育支援を開始した。

また学校からの要望に沿い、図書(100冊)を寄贈した。

11月12日、石川副理事長と根岸理事長が同校を訪問、教育支援金と図書を届けた。



教育資金を渡す石川桂さん

図書(150冊)を寄贈

11月20日、根岸理事長とスタッフが「ソカーオン佐々木小学校」(コンポンチュナン県・生徒数1100人)を訪問、同校に校舎を寄贈した佐々木テルさん(宮城県利府町、会員)から預かった図書(約150冊)を届けた。

生徒たちは夢中で本を読んでいた。



夢中で本を読む子どもたち

コンポンスプー県 小学校対抗サッカー大会

日本とカンボジアのサッカーW杯第二次予選の試合がプノンペン市内のオリンピックスタジアムで行われるなど、カンボジアは空前のサッカーブームに沸いている。

そんな中地味な活動だが、11月8日、第8回「コンポンスプー県小学校対抗サッカー大会」を、児童養護施設「夢ホーム」の近くにある「ローロツ小学校」の校庭で開催した。本会及び「カンボジアの子どもたちに夢と希望を贈る市民の会」(茨城県日立市、菊池和雄代表)が主催した。

夢ホーム周辺の8つの小学校が参加、夢ホームの子どもたちが通う「タメイ小学校」が3年連続で優勝を飾った。夢ホームの小学



裸足でボールを蹴る子どもたち(審判は菊池和雄さん)

第31回「カンボジアふれあいの旅」

11月5日、11日、第31回「カンボジアふれあいの旅」が行われた。参加者は一部参加を含めた23人。

5日、成田空港・関西空港からフルタイム参加者総勢19人がカンボジアのシエムリアップへ向かった。

6日、2班に分かれ活動、A班はアンコールワット観光、B班はプレアピヒア県で行われた小学校校舎の贈呈式に出席した。

7日、午前中トンレサップ湖に浮かぶ水上小学校を訪問、学用品を寄贈した。午後、一休みしてから空路でプノンペンへ。

8日、児童養護施設「夢ホーム」を訪問。午後から2班に分かれ活動、A班はセントラルマーケットにて買物、B班は第8回「コンポンスプー県小学校対抗サッカー大会」を観戦した。

9日、2組に分かれ、「クメール教育里親基金」が支援する教育里子の家を訪問した。

10日も2班に分かれ活動、A班はプノンペン市内観光、B班は井

戸贈呈式に出席した。

同日午後8時にホテルをチェックアウト、インチョンを経由し翌日正午頃、無事帰国した。

今回の旅は、カンボジアの2大都市(シエムリアップ・プノンペン)を駆け足で巡るハードな日程にもかかわらず皆さん元気で活動し、思い出に残る有意義な7日間だった。



夢ホームの子どもたちや現地スタッフと(夢ホームで)

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病氣や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、且つ貧しい環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるようにと、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約380人の子どもたちを教育支援している。

カンボジア滞在中(11月5日、24日)、「カンボジアふれあいの旅」に参加した4人の教育里親さんをご案内した。

また16人の里子に、教育里親さんからのプレゼントを届けた。滞在期間中、季節は雨季から乾季に移行、農村では間もなく稲刈



里子に会った海老名信子さん(左が里子のスレイカーちゃん)

りが始まる。子どもたちは農作業で忙しくなる。

(根岸恒次・法人理事長)

おかげで自立できました(シン・サーエム)

里親の皆さん、こんにちは。

私はシン・サーエムと申します。私はいまプノンペン郊外で、友達4人と部屋を借りて住んでいて、縫製工場で働いています。24歳になりました。

小学校4年生の時から高校を卒業するまで9年間、日本の教育里親さんに応援して頂きました。

高校を卒業し、先生になるための試験を受けましたが、残念ながら不合格でした。今は、お金を貯めて、何かの商売を始めるのが夢です。

こうして元気で働いて暮らしていけるのも、教育支援してく

れた日本の里親さんのおかげです。本当にありがとうございました。これからも、夢に向かって頑張ります。



シン・サーエムさん(プノンペン事務所で)

「神戸ユネスコ協会」がカンボジア訪問

11月21日、25日、神戸ユネスコ協会(神戸市中央区・加藤義雄会長)一行10名がカンボジアを訪問、22日と23日の2日間、本会と活動をもにした。

今回の訪問参加者は中国やモンゴルからの留学生(4人)、大学教授なども含まれ、国際色豊かなメンバー。

22日は夢ホームを訪問してお米2袋を寄贈、23日には同会が校舎を寄贈した「ストックアイトロミヤ神戸ユネスコ小学校」を訪問して遊具と学用品を寄贈した。留学生も思い思いに生徒たちと交流した。



神戸ユネスコ協会の皆さん

石川副理事長が総合学習の授業で講演

10月1日、愛知県安城市立篠目中学校(1年2組)の総合学習の授業で、石川桂副理事長(愛知県安城市、里親会員)が講師として招かれ、カンボジアについて話した。(第5時限・第6時限)

カンボジアでの支援活動、カンボジアの人々の暮らしぶり、カンボジアと日本の教育事情の違いなどについて説明、生徒たちには初めて聞くことばかりで、興味深く聞き入っていた。

後日生徒たちから、カンボジアについて理解が深まったという感想文が多く寄せられた。



子どもたちに授業する石川桂さん

カンボジア代表と日本代表がプノンペンで激突!

サッカーW杯アジア2次予選、カンボジア代表と日本代表が11月17日、プノンペン市内の「国立競技場」で対戦した。

長かった雨季が終わり、すでに乾季に入ったカンボジア、試合が行われた当日も雨は降らず、暑い中での試合だった。

観客数は、会場の発表では3万人だが、ほぼ満員状態だったので、5万人はいたろうか。殆どカンボジア人で、日本人は1千人前後か。それでも、日本から弾丸ツアーで来てくれた若者や在留邦人がカンボジア全土から集まり、負けずに声援を送っていた。

試合の結果は日本が2-0で辛勝した。

試合を観戦して感じたことは、カンボジアのレベルが上がったことだ。FIFAランクこそ185位と下位にあるが、初めて2次予



白のユニホームが日本代表

15周年に寄せて 榎戸徹彦

15周年、おめでとうございます。私とこの会との関わりは2010年からですので、僅か6年にすぎませんが、アクセサリー作りの講習会の為にカンボジアを訪れる機会を通して様々な経験をさせて頂いております。

中でも夢ホームの子供たちとの交流は、「日本人として、その前に人間として自分は何を考え、ど

うするべきか」を自問自答する機会を与えてくれました。

子供同士の中にも力関係が有り、駆け引きが有ります。

私にほかの子の告げ口をしに来たり、「エノさん(私のあだ名)は、どの子が一番好き?」と、訊いてくる子もいます。どうすれば愛情

を自分の方に向けてもらえるか、必死に考えているのです。夜、敷

地の隅の隅がり泣いている子を見たこともあります。

そんな中で、いつから始めたのか忘れましたが、私が行く度にゲームをするようになりました。景品を用意して大人も子供も一緒にワイワイと大騒ぎです。

この子たちがいつか大人になった時、子供時代を振り返って「親戚兄弟とは離れ離れだったけれど、楽しい思い出がたくさんあったなあ。」と感じて欲しいのです。皆、心の優しい子たちです。

T君はゲームの1等の賞品の腕時計を気に入っていたのに、帰省した時に兄弟にあげてきました。

C君は「僕はおばさんの家に帰るといつも泣くん。本当に貧乏なんだよ。着る物も無いんだ。だからエノさんがくれた服を置いてきたんだ。」と言いました。

この子は買ってあげた翌々月には又、ボロボロの服を着ている事がある。私は「服を買ってあげてもすぐにダメにする子だなあ。」と思っていました。物事のうわべだけしか見ていなかった自分にはずかしいです。

カンボジアを一人で行動すると、やはり危険な事も有ります。アンコールワットの敷地の端で2人の若者に金を要求されたこともありました。

殴りかかって来そうな勢いで「俺たちは孤児なんだ。金が沢山必要だ。」と言うので、夢ホームでの活動を説明してパンフレットを見せ、ジュース代だけ手渡しして背を向けて歩いてきましたが、追いかけて来ることはありませんでした。

もし殴られて打ち所が悪くて死んでいたらとしても、私はあの2人を憎むことは無いでしょう。彼らは子供時代に受けるべき愛情が足りなかったのです。例えばカンボジアでの活動がどれだけ私の心を、魂を鍛えてくれたか計り知れません。盗まれたり、裏切られたり、入院して落ち込んだり…。

そんな時、(私はキリスト教徒ではありませんが)敬愛するマザーテレサの言葉が私に「又、頑張ろう!」という力を与えてくれます。最後にその言葉を記します。

【あなたの中の最良のものを】

人は不合理 非論理 利己的 です 気にすることなく人を愛しなさい あなたが善を行なうと利己的な目的でそれをしたと言われるでしょう 気にすることなく善を行なさい

目的を達しようとするとき じゃま立てする人に出会うでしょう 気にすることなくやり遂げなさい 善い行いをしても おそらく次の日には忘れられるでしょう 気にすることなくしつづきなさい

あなたの正直さと誠実さがある なたを傷つけるでしょう 気にすることなく 正直で誠実でありつづきなさい

あなたが作り上げたものが壊されるでしょう 気にすることなく 作りつづきなさい

助けた相手から 恩知らずの仕打ちを受けるでしょう 気にすることなく 助けつづきなさい

あなたの中の最良のものを世に与えなさい 蹴り返されるかもしれ ませんでも 気にすることなく 最良のものを与えつづきなさい

最後に振り返ると あなたにもわかるはず 結局は全てあなたと内なる神との間のことなのです

あなたと他の人との間であったことは一度もなかったのです

―マザーテレサ―

(横浜市、理事・里親会員)



キリロム森林公園(コンボンスプー県)にて

お年玉募金にご協力ください

本会では、毎年12月～1月にかけて「お年玉募金」として、特別にご協力をお願いしております。今回は、児童養護施設「夢ホーム」の施設整備費用に充当させていただきます。夢ホーム前の道路が拡張されることになり、塀や正門などを壊す必要が生じました。国側から、若干の補償金を頂きましたが、それだけでは不足しております。皆様のあたたかいご支援をお待ちしております。送金方法Ⅱ所定の郵便振替票をご利用ください。(銀行振り込みをご希望の方は、事務局にご一報ください)

初心者向け講座

カンボジア語を学んでみませんか

「21世紀のカンボジアを支援する会」では、カンボジアへの支援活動に加え、カンボジアの人たちとの交流活動も行っています。そこでネックとなるのが言葉の問題です。通訳を介さずに直接お話できれば、さらに交流が深まることでしょう。簡単な会話ができれば、子どもたちと話すことができます。

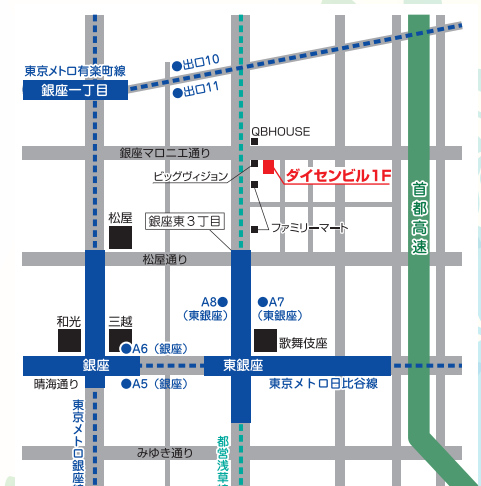
そこで、試みとして第1回目のカンボジア語講座を計画しました。好評であれば、第2回、第3回も企画いたします。幸い、素晴らしいカンボジア人講師と、銀座という素敵な会場に恵まれました。皆様ふるってご参加ください。

講座日程

日時：2016年2月～4月(午後2時～4時)
会場：21世紀のカンボジアを支援する会『銀座サロン』
中央区銀座3-11-2 ダイセンビル1F
講師：ノップ・ヴィサールさん(カンボジア人留学生)
明治大学国際日本学部在籍
費用：1回につき1,000円(その都度いただきます)
別途教材費2,000円前後
募集定員：10名
※定員になり次第締め切らせていただきます
申込み：電話、FAX、メールで本会事務局まで申込みください。

第1回	2月6日(土)
第2回	2月13日(土)
第3回	2月20日(土)
第4回	3月5日(土)
第5回	3月12日(土)
第6回	3月19日(土)
第7回	3月26日(土)
第8回	4月9日(土)
第9回	4月16日(土)
第10回	4月23日(土)

会場案内



根岸理事長が会の公式ブログ「メコンの風に吹かれて」に掲載した80編が一冊の本になりました。200頁に満たない小さな単行本ですが、現地カンボジアのことを知るには良い教材です。初版は500部のみです。ご希望の方は、送料を含む千円を郵便振替票にて事務局へお送りください。(切手でも可)届き次第、郵送させていただきます。

『メコンの風に吹かれて』出版のご案内

※銀行振込をご希望の方は事務局へご報告ください。
※郵便銀行の自動引き落としを希望の方は事務局へご一報ください。
21世紀のカンボジアを支援する会(口座番号) 0013000160916

会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込、現金書留で。
(郵便振替口座名) 21世紀のカンボジアを支援する会(口座番号) 0013000160916

・個人会員(年額1口5千円)
・法人会員(年額1口1万円)
・教育里親会員(年額里子1人につき3万円)

農村の貧しい子どもたちが学校に行けるようにと教育資金をサポートしてくださる教育里親会員を募集しています。サポート金額は年間3万円(分割可)です。

クメール教育里親基金
学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年3回実施しています。

ボランティアとして
学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年3回実施しています。

活動に参加しませんか

第24回鋳造によるアクセサリ作り技術講習会《夢ホーム》



講習会の様子

根岸理事長が会の公式ブログ「メコンの風に吹かれて」に掲載した80編が一冊の本になりました。200頁に満たない小さな単行本ですが、現地カンボジアのことを知るには良い教材です。初版は500部のみです。ご希望の方は、送料を含む千円を郵便振替票にて事務局へお送りください。(切手でも可)届き次第、郵送させていただきます。

第24回目の講習会を10月27日(土)、「夢ホーム」で開催した。前回に引き続き、クメール文字のペンダントを作成した。古くからいる生徒は、アンコールワットをかたどった指輪に挑戦した。

次回講習会を、2月16日(土)に予定している。

お悔やみ申し上げます
9月20日、個人会員の蓮見町子さん(横浜市在住・享年75才)が、ご病気のため亡くなりました。

また、11月5日、里親会員の青山悦子さん(富山県射水市在住・享年70才)が、ご病気のため亡くなりました。

お二人とも、カンボジアの子どもたちのため、長年に亘りご支援くださいました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

新しい仲間が増えました
2015年10月～11月に新しく会員になられた方々は次の通りです。

■教育里親会員(鹿児島県)
・上園陽子様(鹿児島県)
・大森麻美様(東京都)

■個人会員
・小川裕子様(兵庫県)
・井出雅人様(愛知県)

書き損じハガキ・未使用切手・商品券等をお送りくださいませんか

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力ください。よろしくお願致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

■2015年もあとわずかになりました。皆様にとって、この1年はどのような年でしたか?来年も良い年にしたいものです。
■第31回「カンボジアふれあいの旅」も無事に終わり、参加者全員、元気で帰国することができました。皆様のお祈りの賜物と、感謝申し上げます。次回は3月3日～9日を予定しております。ふるってご参加ください。

1月～2月の予定
●会報「アンコールワット」1月1日付第86号発行
●お年玉募金の受付(12月～1月)
●写真展「カンボジアの子どもたち」(2月15日～22日・清瀬クレアギャラリー)

●第14回定期総会(2月27日、区立練馬文化センター・会議室)

●2016年度第1回・2回理事会(2月27日、区立練馬文化センター・会議室)

真珠のように輝く子どもたちの瞳に出会ってみませんか?

「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な小学校校舎及び井戸の贈呈式など

第32回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもの人との交流をはかることができます。

特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。あわせて学用品配布や小学校校舎、井戸の贈呈式に参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。

旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。

また、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、会員以外の方は、事前に会員登録(年間一口5,000円)が必要になります。



「夢ホーム」の子どもたちが皆さんをお待ちしています



里子の家を訪問します

【旅行期間】2016年3月3日(木)～3月9日(水)〈5泊7日〉

【募集定員】最少催行人員10名様(定員=20名)
先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

【滞在ホテル】ミッタピアップホテル(ブノンペン)5泊

【利用空港】成田空港、関西空港、その他

【旅行日程】3日=成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのブノンペン国際空港へ
4日=小学校を訪問、井戸の贈呈式に参加
5日=教育支援する里子の家を訪問
6日=夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
7日=小学校を訪問、校舎の贈呈式に参加
8日=ブノンペン市内観光、午後5時頃ホテルチェックアウト→ブノンペン国際空港から帰国の途へ(空港にての現地解散になります)
9日=午前、成田空港、関西空港などに到着

【旅行代金】140,000円を予定。*現地までの航空券代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。*1人部屋希望者追加料金5泊10,000円。*海外旅行保険は各自でおかけください。*カンボジア入国ビザを取得するため、現地空港で30ドルかかります。

【締切日】2016年1月20日(水)

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人
21世紀のカンボジアを支援する会

〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL: 03-3991-2854 E-mail: info@aac21.net
FAX: 03-3557-1213 http://www.aac21.net